

<今朝の聖書から>

【主の教え】主イエスの働きは、たとえを用いての教え、奇跡や弟子達の育成など、多く記録されています。今朝の箇所は、誤った思いへの教えになります。ちょっと先になりますが“自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者(21節)”という指摘を忘れないようにしましょう。同じことをヨハネによる福音書では5:44に“互いに相手からの誉れは受けるのに”と教えられているのと同じことです。神よりも人と人との優劣・豊かさの比較を、はるかに問題にしてしまっている、というのです。そこに神はないのです。世の中全体が、仮に物質的に豊かに便利になっていったとしても、やはり“関係”ということの問題にしてしまうのが、私たちのよく理解できることとして、立ちはだかります。しかし主イエスの教えはそこで終わっていません。まずそれらが、時としてどんな不幸に繋がるかを示されます。次に貧しいとか地位があるという問題は、神の価値観とは別のものであり、“あなた方はどう思うのか”と仰っているのです。

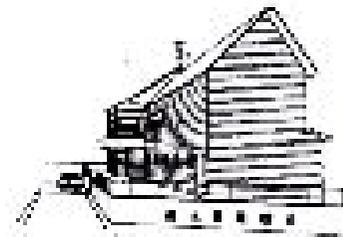
【裁判人】遺産という言葉が最初から出てきます。遺産は正しく扱われているか、遺産が与えられた人にこのことは問われるのです。14節のこの言葉は、今でいえば調停人のようなものです。これは神のなさることではなく、財産を優先させる、神なき世界の事柄である、と教えられます。財産を問題にしなくてもよいと言っているではありません。有効に用いられなければならないのです。次の喩を通してそのことが示されます。12:25に恵みと反対に“思い悩み”は長寿の力にはなりえないのです。

【喩と真実】主イエスは沢山の喩を語られます。喩ですから、フィクションです。思い出してみれば分かりますが、沢山のフィクションが語られます。しかし、そこに真実があるからこそ読めるのです。“赤と黒”とか“罪と罰”というような小説の話を、私も語る時がありますが、これは物語です。しかし“だから真実がない”ということにはなりません。

【神なき不幸】“さあ、これから先何年も生きていくだけの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しめ(19節)”という言葉に注目しましょう。実によく理解できるのではないのでしょうか。これに対して“愚か者(20節)”と仰るのです。主の栄光の為に用いることを教えられます。“今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか”とある通りです。23節で“命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切だ”とも語られます。利害関係の中でもたらされる不幸から離れ、財を主の為に用いましょう。主を知る知識の絶大さ(ピリピ書3:8)こそ、証と力の源になっているのです。

週報

2010年 10月 24日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト
清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042